

経営比較分析表（平成29年度決算）

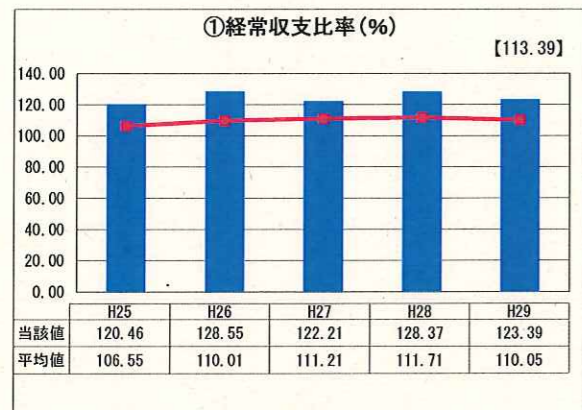
鳥取県 北栄町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	66.00	99.45	2,970	

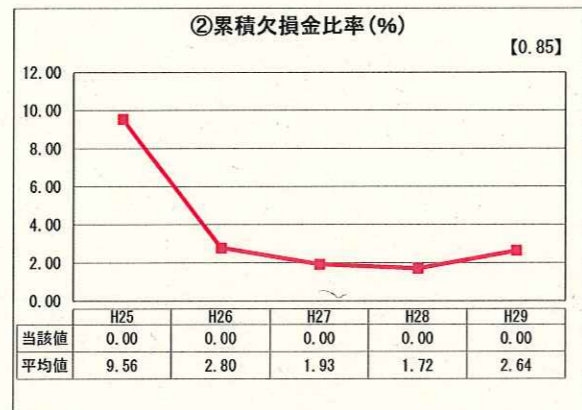
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
15,270	56.94	268.18
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
15,112	56.94	265.40

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

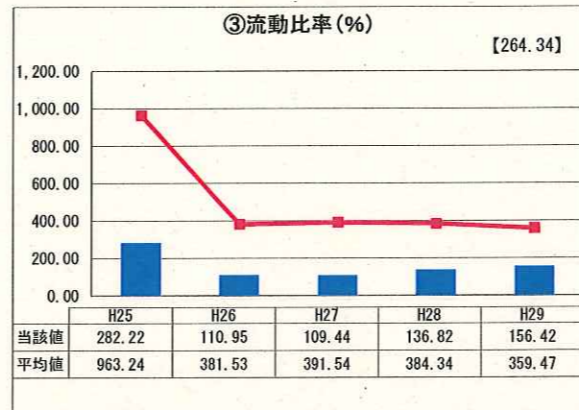
1. 経営の健全性・効率性



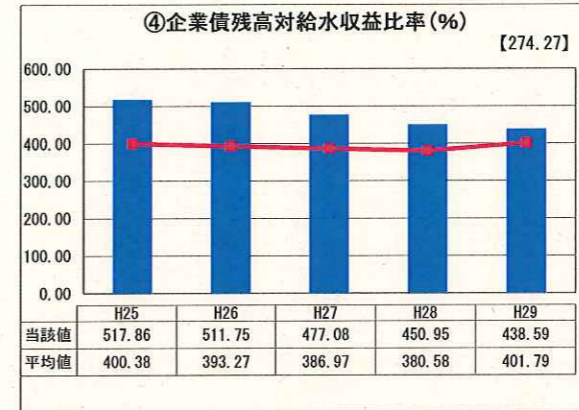
「経常損益」



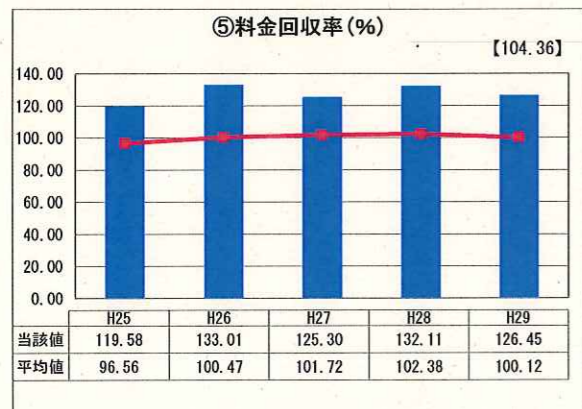
「累積欠損」



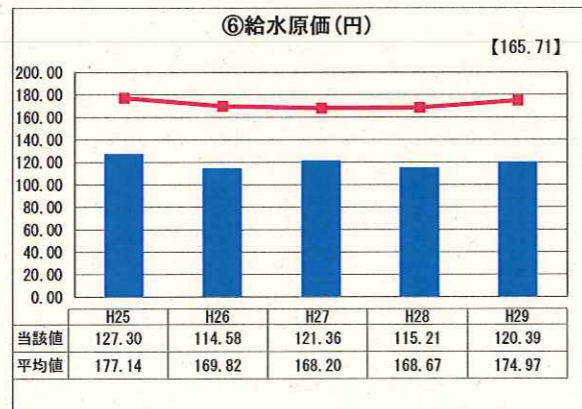
「支払能力」



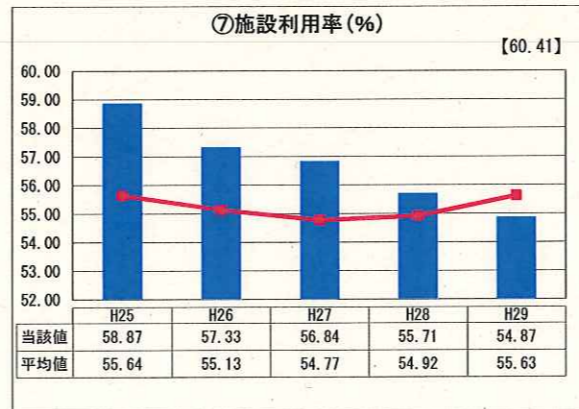
「債務残高」



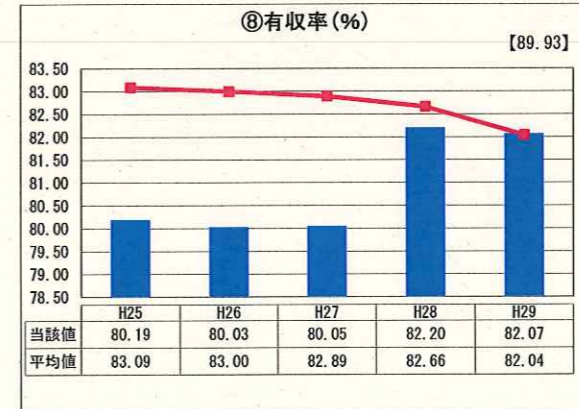
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

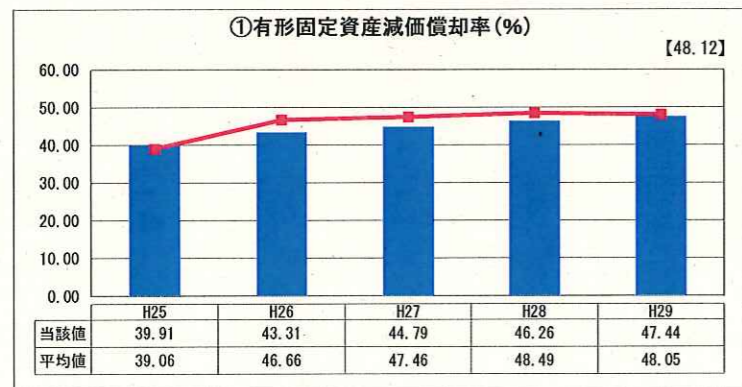


「施設の効率性」

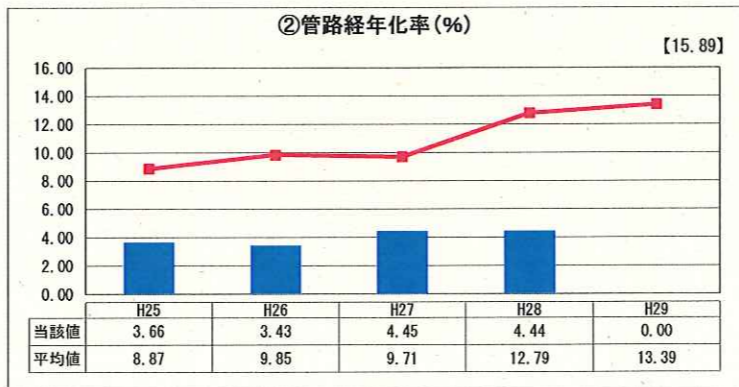


「供給した配水量の効率性」

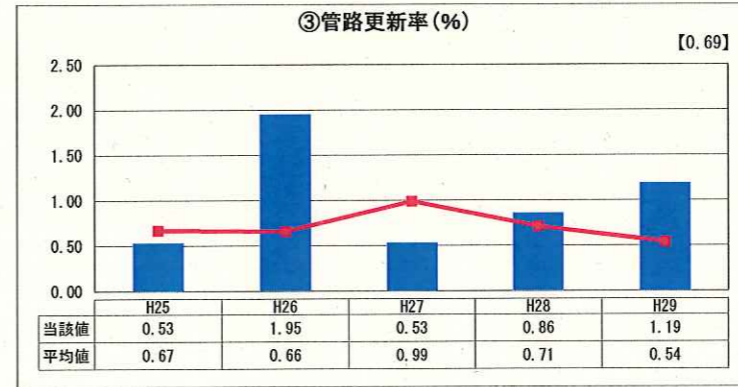
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

・北栄町の水道事業は、「①経常収支比率」と「⑤料金回収率」の数値より、給水収益等で給水に係る費用が十分に賄えており、類似団体の平均値と比較しても高い数値であり、健全な経営ができています。
 ・「②累積欠損金比率」も発生しておらず、経営上問題はない。
 ・「③流動比率」で短期的な債務に対する支払能力はある(100%以上)と表示されており、現金については、年々増加傾向にある。
 ・一方で「⑥給水原価」は、全国平均と類似団体より低い状態にあるが、今後、適正な料金回収率や投資の効率化・維持管理費等の削減といった部分においては検討が必要である。
 ・さらに「④企業債残高対給水収益比率」は、全国平均と類似団体の数値を上回り、施設の整備に係る費用(工事請負費)の財源を企業債に依存していた結果であると言える。今後5年間も配水管改良工事等を継続する予定であるため、投資規模が適正であるかどうかの見直しが必要である。
 ・「⑦施設利用率」は年々減少傾向にあり、人口減に伴うものと考えられるが、そもそも施設が遊休状態ではないかの分析も必要である。
 ・「⑧有収率」は高い状況にあり、施設稼働が収益に反映され、良好な状況である。

2. 老朽化の状況について

・「①有形固定資産減価償却率」は、類似団体平均値を下回っているものの、年々増加傾向にあり、資産の老朽化度合は今後も上がると予想される。(法定耐用年数に近い資産が増加する見込みである。)

全体総括

・北栄町の水道事業は、現在のところ経営上の問題はなく、健全であると判断できる。
 しかしながら、今後、人口減の影響による収益の低下、さらに施設等の老朽化による維持管理費等の増額も見込まれ、企業債等に依存せざるをえない厳しい状況も予想される。
 以上のことから、今後の施設の更新、整備や耐震化等を進めていく上において、施設利用率、有収率の向上を念頭に置きながら、より適切かつ効率的な計画を検討する必要があると考える。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。